



事業全体のサマリー

真珠価値探求プロジェクト

【経緯】

地域価値支援事業では、志學館大学(鹿児島県)、別府大学短期大学部(大分県)、大阪夕陽丘学園短期大学(大阪府)、和泉短期大学(神奈川県)からなるコンソーシアムが立ち上がっています。その中で、大阪夕陽丘学園短期大学では、2019年度より三重県志摩市に対して、地域価値発見支援事業を目指した取り組みとして、真珠に注目した「パールズコレクション」の支援が行われています。しかし、真珠の需要は年々低下しており、早急に新たな真珠の価値を見出す必要性が高まっています。そこで、今回、従来の流通に乗らない真珠や貝殻の新しい価値の発見することで、地域価値の創生に繋げることを目的として真珠価値探求プロジェクトが立ち上がりました。

【概要】

真珠価値探求プロジェクトは、従来は流通に乗らない真珠・貝殻の新しい価値の発見することで、地域価値の創生に繋げることを目的としています。また、本プロジェクトを通して、地域コミュニティの基盤となる人材の養成として、地域社会とどのようにかかわっていくべきかを短期大学生に体験させることで「市民としての自分らしさ」を気づかせることにより、コミュニケーション能力や社会人基礎力などの向上が期待されます。そして、4校による分野横断的な学びを通じて、学修成果を社会実装につなげる貴重な機会を提供することができます。さらに、社会の役に立ちたいという高い精神性・自由で豊かな感性・情報発信力などの学生力と教員の研究力、職員のマネジメント力を一体化することで、新たな「短期大学力」としての存在感を社会に強くアピールすることが可能となります。

【成果】

4回のオンライン交流を踏まえて、5回目に発表会が開催されました。回を追うごとに各校とも他校のプレゼンテーションに刺激され、地域性や学科特性がブラッシュアップされていました。その結果、大阪夕陽丘学園短期大学では他学科である製菓クリエイトコースの先生と共同したフランス菓子の制作、和泉短期大学では幼児保育の目線でのマラカスや貝殻のペン立ての制作から幼児期から真珠に親しむためのストラテジーの提示、別府大学短期大学部では地域特性を生かしたプレゼンテーションから温泉の素やチキン南蛮など地域に根差した作品の制作がなされました。また、6回目の総括と次年度に繋げるでは、事前アンケートを基に、各校が他校をリスペクトした意見が出され、分野横断的なコミュニケーションから「学びの連鎖」や「学びの化学反応」などの新たな価値発見を示すことが出来ました。



真珠酢を使った洋菓子「パート・ド・フリュイ」

■作り方

- ①グラニュー糖30gとベクチンをよく混ぜ、ふるう
- ②厚手の鍋にビュレを入れ弱火で沸騰させ、①を少しずつ振り入れ混ぜ込む
- ③泡だて器で攪拌しながら約1分沸騰させる
- ④グラニュー糖と水あめ、酢を加え、109~111℃まで煮詰める
- ⑤バットにクッキングシートを敷き込み、そこに流し入れる
- ⑥2時間ほど冷やし固め、グラニュー糖をかけ、好みの大きさの角切りにする

↓試作の様子

おもちゃの利用する場

真珠の価値を子どもたちに伝えるために、幼稚園などのおもちゃとして置いておくことで真珠というものを身近に感じてもらえるようにする。

真珠に触れて、見て、嗅いで、聞いて、五感を通して素材に親しむ経験に♪

感じたことを表現する経験に♪

友達と「いっしょ」を楽しむ経験に♪

真珠を身近に感じる経験を保障する

乳児さんなら、握む・放す・振るなど手指の運動発達にも♪

色水を入れなければ楽器に♪音やリズムを楽しむ経験に♪

おもまごに例えば、ごっこ遊びでイメージを豊かにする経験に♪

入浴剤の開発と効果

入浴剤の試作

真珠パウダー 1 : 湯の花 2 : 炭酸水素ナトリウム 4

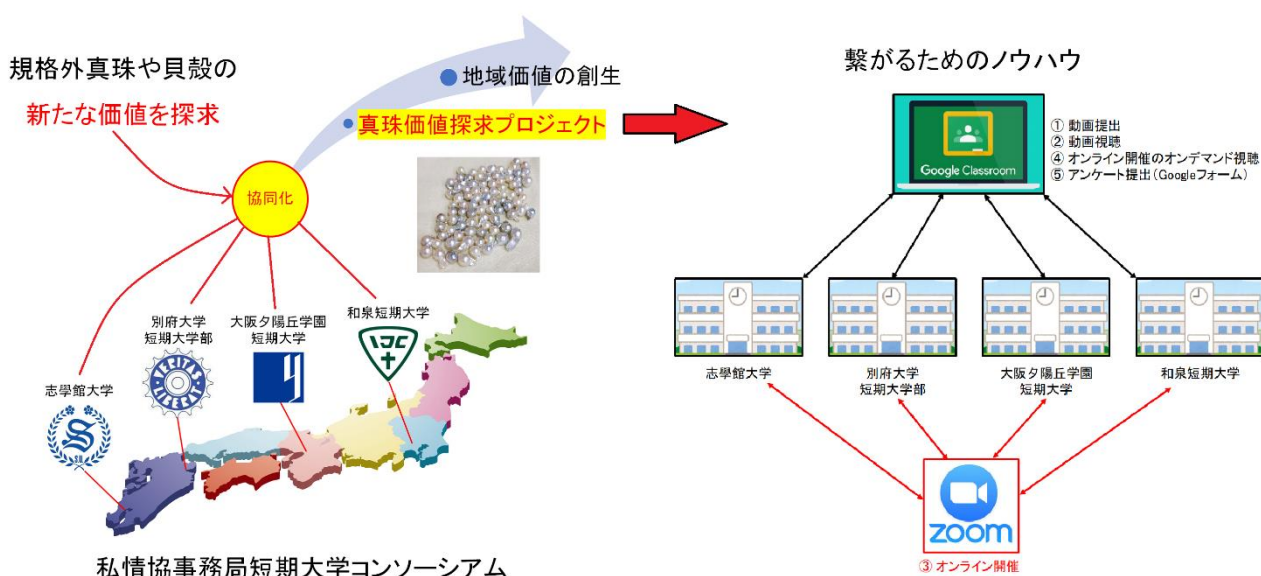
の割合で混合したものを作成した

【ノウハウ】

4校のオンライン環境は、Zoomを用いることで、あらゆるデバイスからのアクセスを簡便にかつ円滑に繋がる事が出来ています。また、Google Classroom を利用することで、事前の説明動画の提出と視聴、当日不参加者へのオンデマンド配信の提供、アンケートの実施による振り返りが行えます。

【展望】

今回のパイロット実証試験のノウハウを基盤として、全国の地域価値の創生に繋げることを目的とします。また、各校の問題に対して、問題解決型コンソーシアムを行うことや、物質を対象とした事案のみならず、少子化問題などの非物質に対しても取り組むことへと繋げることが期待できます。



真珠価値探求プロジェクト 2022年度活動報告

治京玉記

深町和哉、八代陽子

後藤善友、衛藤大青

大重康雄

大阪夕陽丘学園短期大学

和泉短期大学

別府大学短期大学部

志學館大学

1. 参加者

- 教員(6名):大重康雄(志學館大学)、治京玉記(大阪夕陽丘学園短期大学)、後藤善友・衛藤大青(別府大学短期大学部)、深町和哉・八代陽子(和泉短期大学)
- 学生(30名→19名):大阪夕陽丘学園短期大学(7名)、和泉短期大学(5名)、別府大学短期大学部(7名)
 - 1回目:13名(内オンライン参加2名)
 - 2回目:10名
 - 3回目:12名
 - 4回目:10名
 - 5回目:12名(内オンライン参加1名)
 - 6回目:6名(内オンライン参加1名)

2. 活動期間

2022年11月10日～2023年3月9日(全6回)

回数	開催日	テーマ	司会進行	ファシリテーター
1回目	11月10日	オンライン(Zoom)で繋がろう!	大阪夕陽丘学園短期大学 治京	教員全員
2回目	12月15日	お互いを知ろう!	大阪夕陽丘学園短期大学 学生さん	治京
3回目	1月12日	アコヤ真珠および貝殻を調べてみよう!	和泉短期大学 学生さん	深町・八代先生
4回目	1月26日	テーマを決めよう!	別府大学短期大学部 学生さん	衛藤・後藤先生
5回目	3月2日	発表会	志學館大学 大重先生	教員全員
6回目	3月9日	次年度に繋げよう!	志學館大学 大重先生	教員全員

3. 活動方法

- ① 開催3日までに説明スライドあるいは説明動画(10分以内)を Classroom に投稿
- ② 開催日までに説明資料の確認
- ③ オンライン Zoom 開催(当日参加者)
- ④ オンライン開催のオンデマンド配信(当日不参加者)
- ⑤ 開催 10 日以内に Google フォームのアンケートに回答

4. 参加学生の感想

【学びの協同化について】

- 他大学、関西圏以外の方々と繋がれる機会を貴重に思い、とても楽しみです。
- 他の学校・学生と繋がることのできる機会はなかなかないと思います。そういう中で、全国各地にいる学生とひとつのプロジェクトに取り組むということはとても面白いことだと思いました。
- 他の大学の人と交流がもてて、その地域のことを色々知れるから。
- 他の地域について知ることが出来るし、このコロナ禍の中では繋がりが限られてしまうので、こういった機会で繋がれるのは嬉しいから。
- 普段の生活だったら関わらざるを得ない県外の学生の方々と、関わりを持ち学習をすることが楽しみです。
- 様々な学校と協力して活動することにとっても興味を持ちました。
- 新しいことを始められることにワクワクしている。
- 全国からこのプロジェクトに参加する学校と、一緒に学んでいくことができるのは初めての経験だから。こんな経験はあまりないから、興味をもてた。
- みんなで協力して何かを成し遂げるのはとても楽しいから。

【真珠価値探求プロジェクトへの期待について】

- 自分が今まで一度も考えたことがない新しいことに、とてもワクワクしました。
- 真珠というものを使って志摩市の新たな価値創生を担うことができるのはとても楽しみです。
- 使わない真珠に使い道を作ってあげれるから。
- 真珠はネックレス等のイメージしかなかったのも、もっと価値を知りたいと思ったから。
- 今まで体験したことのないことをするので楽しみです。
- 本来廃棄されるはずだったもので何かを開発するのが楽しそうだから。
- 真珠を使って何かを作るのがとても楽しそうだと思いました。
- 真珠について考えたこと無かったのも考え深かった。
- 真珠を使って何かを作るのが楽しそうだと思ったから。真珠のお酢も使ったことがないので楽しみです。
- 真珠の価値を自分たちで見つけ出すのが楽しそうだから。
- 今まで真珠はアクセサリーなどに使われるものだと思っていたけれど、それをどんな風に使えばよいか、みんなで考えていくことができるのは楽しそうだし、良いことだと思うから。
- 真珠を再利用するのが素晴らしいと思った。

【規格外真珠について】

- 素人が見ると規格外真珠もとても綺麗で、価値は充分に感じることができました。販売できない野菜や果物も中身の価値は変わらないのと同じ感覚なのかなと思います。例では、パールポークによる身体への影響などに、とても興味をもちました。
- 宝飾品で使われる規格には当てはまらないのかもしれませんが、成分は変わらないし、いび

つな形もこの世に一つしかないという意味で価値のあるものだと思います。このプロジェクトで出すものはまだ決まっていますが、出されるものに「規格外」という言い方はあまり使いたくないなと思いました。

- 真珠は綺麗で好きだから、規格外のものでも何かに使えるのはいいことだと思った。
- 新しい魅力として凄く有力だなと思いました。金魚みたいな真珠が可愛いなと思いました。
- みなさんと一緒に商品開発等に携われることを嬉しく思います。
- 規格外なだけであって、利用方法は色々あるはずではないかと思う。
- 別のことに利用して、また良いものにできるのではないかと었습니다。
- いい考えが思いつけばいいなと思いました。
- 規格外真珠でもまだまだ色々なことに使えると思うので、今回は料理という考えで良いものが作れたらいいなと思っています。
- 交流ができて楽しかった。
- どんな風に食べれるようになるのか、規格外真珠とはどのようなものなのかが気になる。
- 使えないものを使えるようにするのはエコでいいなと思った。

【真珠価値探求プロジェクトに参加して】

- 一つの題材に対して、普段学校で学ぶことができないようなものを調べたり発表する機会ができたこと。他大学との交流ができたこと。
- コロナ禍もあって制限されている中で、他県の方とコミュニケーションを取れたのが楽しかったです。
- 授業以外でこういったプロジェクトに参加し、自ら研究や探求ができたこと、楽しみながらできました。
- 真珠がパウダーや酢として食品などに役立っているとは思いませんでした。
- 各学校でそれぞれ真珠から色々なものを作り、真珠について色々知ることができたから。
- 真珠をどうやって広めていけばいいのかを、他大学の方とそれぞれの特徴を活かしながら考えられたことがよかった。
- 今回のようなプロジェクトが無ければ、真珠の今の状況や考えることがなかったから。
- 真珠について学ぶことで真珠の成分を利用し調理をしたり、貝殻を使い子どもの制作の材料にしたりなど真珠を身近にする方法は多くあると知れたため。
- 全国の様々な学校の方とか関わられたため、自分の考え方の幅が広がったと思うから。
- 真珠と聞いて持つ大きなイメージは丸くて綺麗なものが多いですが、規格外の真珠の使い道を知ることができたから。
- 真珠のことだけでなく、地元のことをもっと知るきっかけになったから。

【真珠価値探求プロジェクトの改善点について】

- プロジェクトゴールを明確にしてほしいです。目的は志摩市の価値創造ということでしたが、具体的なゴール(ステークホルダーが誰なのか、どんな成果物を期待しているのか)がないままスタートしたので、どこに向かえばいいのかがぼんやりしてしまいました。
- 議事録を残したらよいのではと思いました。次の回以降の資料作成やミーティング時の振り返りに参考になると思います。議事録作成者は各回大学で持ち回ればよいと思います。
- 特に無かったです。
- もう少し長い期間を設けて入念に調べる時間や、他大学とのディスカッションがあればよかったかなと思った。
- ないです！
- 改善点は特にないと思います。
- 特になし。
- 特にはないかなと思います。一つ挙げるとすれば、せっかく繋げてのプロジェクトだったのでもっとコミュニケーションを取れたらよかったなと思いました。
- 特にないです。
- 特にないと感じるが、もっと学校間の関わりを増やしても良いと思った。
- もう少し長期的に細かく活動したかった。
- 特にないです。

【大阪夕陽丘学園短期大学の発表会について】

- 全体的にきちんとまとめられていて伝えたいことがよく伝わる発表で、勉強になりました。
- 美味しそうな品を作っていてすごかった。

- 真珠を使ったグミを作っていてとても興味を持ちました。色も綺麗で良かったです。結構甘いと言っていたので私も食べてみたいです。
- 理系的な考え方が自分たちとは全く違いとても面白かった。今後、販売を考えて真珠プロジェクトを続ける場合は成分などに表示して考えることも必要だと、大阪夕陽丘学園短期大学さんの発表をきいて考えることができた。
- 私たちが挙げた案に関して成分を調べてくれたり、方向性の後押しをしてくれたなど感じています。また、今回大阪夕陽が作ったお菓子、見た目もきれいで本格的だなと思いました。
- テーマにそって調理したものを紹介していたため良かったと感じた。
- パワーポイントがすごく丁寧で、ポイントがおさえられていて分かりやすかった。
- お菓子を実際に作っていて大学で学んだことを活かして真珠について着目していてすごいと感じた。
- 企画をスムーズに進めてくれてありがとうございました。

【和泉短期大学の発表会について】

- マラカスやペン立てづくりと、劇や紙芝居を活用した真珠の歴史などを組み合わせた教育というアイデアはとても良いなと思いました。「教育には啓蒙と実践の面からアプローチすることが大切」というようなことを仰っていたのが印象でした。
- 自分では想像がつかなかったなど思う部分が多く、新たな発見ばかりで勉強になりました。
- 保育に携わられてるとのことで、全く別の観点から真珠の価値を調べられてて、発想や提案など面白かったです。おもちゃなどにして真珠を幼少期から身近に触れていくことで、いい意味で価値も下がり、真珠がもっと近い存在になっていくのではないかと思います。
- 子どもに関わる品を作っていてすごかった。
- 私たちは食で真珠を取り入れていましたが、保育でおもちゃに取り入れているのはとてもすごいと思いました。マスカラがキラキラでスノードームみたいで可愛かったです！
- 子ども達の学びと想像力を育む素晴らしい案が多くて、私が学ぶことも多かったです。
- 色々な意見をくださってありがとうございました。

【別府大学短期大学部の発表会について】

- 発表資料が見やすかったです。動画も活用されていてイメージしやすかったです。
- 入浴剤の検証は「やってみた」だけでなく、対照実験や検証項目の設定などをされていて、効果検証の振り返りと課題出しをされていたので、次の検証が具体的にイメージできていいなと思いました。
- 私自身も温泉が大好きで、この春にも別府温泉に旅行に行きます。湯の華と真珠パウダーを混ぜて美容効果を検証するというのはとても興味深く見させていただきました。まさかそんな短期間で効果があるのかな？！とワクワクしましたが、そんな甘いものでもないんですね。。。 (笑)でも継続すると効果を期待できるようで、新たな可能性としてすごく面白い発想だと思いました。
- 自校では真珠を使って料理を作ったり、入浴剤を作ったりしました。温泉県ならではの温泉の魅力を伝えながら入浴剤を作ることができて良かったです。また、いい匂い入浴剤が作れるようにこれからもう1度作ってみたりしたいです。
- 別府大学短期大学部さんの地域の特徴を生かした考えを聞くことができて面白かった。その地域ならではの入浴剤や食品を本当にお土産として、真珠の価値を広めて行ければいいなと思った。
- 地域のことをいかし、真珠を使っていた真珠を身近に感じることができると思った。
- 食物栄養科だからこその栄養を考えたり、効果を考えたりしたものがたくさんあったため、保育学生からすると知らないことばかりで参考になった。
- 入浴剤など生活に使われるものを作っていることが、これからの生活に役立つのではないかと考えた。

【次に繋ぐために】

- ミーティング時間は適当だと思います(30分、長くて1時間)。
- アンケート内容のフィードバックが欲しいです(特に各校からの感想)。
- 他大学が発表時以外でどのように取り組んでいたか、うまくいったこと or いかなかったことを知りたいです。当校は毎回参加メンバーが少なく、ほとんど一人か二人で、喧々諤々と議論が起こることもありませんでした。リーダーやファシリテーターもなく、集まりもなくプロジェクトというかたちになっていなかったです。他大学でどのようにされていたのかを知ることで、次回以降の参考にできると思いました。

- 交流を深めるために、他の大学の方と合同のグループを作って発表をしたら良いのかなと思いました。
- 他大学さんと実際に話してディスカッションをする時間をもう少し長くできれば、もつともつという発見があるように感じました。知識が豊富な先生方と生徒達が、ざっくばらんに沢山の意見を出し合えば視野も広がり繋がっていくのではないかと思います。
- 真珠がこれからどのようにしたら安く安易にみんなが手に入れやすくなるかどうか、調べていけたらいいと思います。
- 今回の真珠プロジェクトでたくさんの意見がでて本当にワークショップのようなものを作りたいという思いになった。例えば3大学にそれぞれの大学の考えたものを並べてみて、他の学生に見せるだけでも真珠の存在や価値を伝えることができると思うので、「真珠を布教するために」ということを目標として考えて行けたらいいなと思った。
- 次の課題は、「コミュニケーションを取る」ということかなと思います。今回は、各校それぞれが案を出して実行するという形でしたが、次の時は、各校が案を出し、それぞれが1つのことを完成させるというのでもいいかなと思いました。
- 真珠を幅広い年代が身近に感じることができるよう、レシピや制作方法を考えることも大切であるが年代をしばって考える方法もあると思う。
- 学校間の関わりを増やす、zoomでの関わりだけでなくclassroomをもっと活用してコミュニケーションをとる、商品開発など実際に効果などを試した上でものにできたら良いと思う。
- 交流をさらに持って知識を共有したいです。
- 長期休暇と重なると、帰省する人も多いため、重ならない方がいいと思います。

5. まとめ(表紙の成果、展望と同じ内容)

4回のオンライン交流を踏まえて、5回目に発表会が開催されました。回を追うごとに各校とも他校のプレゼンテーションに刺激され、地域性や学科特性がブラッシュアップされていました。

その結果、大阪夕陽丘学園短期大学では他学科である製菓クリエイトコースの先生と共同したフランス菓子の制作、和泉短期大学では幼児保育の目線でのマラカスや貝殻のペン立ての制作から幼児期から真珠に親しむためのストラテジーの提示、別府大学短期大学部では地域特性を生かしたプレゼンテーションから温泉の素やチキン南蛮など地域に根差した作品の制作がなされました。また、6回目の総括と次年度に繋げるでは、事前アンケートを基に、各校が他校をリスペクトした意見が出され、分野横断的コミュニケーションから「学びの連鎖」や「学びの化学反応」などの新たな価値発見を示すことが出来ました。

今後の展望として、今回のパイロット実証試験のノウハウを基盤として、全国の地域価値の創生に繋げることを目的とします。また、各校の問題に対して、問題解決型コンソーシアムを行うことや、物質を対象とした事案のみならず、少子化問題などの非物質に対しても取り組むことへと繋げることが期待できます。

以下、教員からのご意見

【真珠価値探求プロジェクトを実施して】

- スタートした時は、真珠に関する知識をほとんど持たない学生が、自ら調べ、独自の作品を考え、生み出すプロセスを経る中で個々が成長する姿を見ることができました。私自身も、その姿を見て、頼もしく感じ楽しい時間でした。本学(和泉短期大学)の学生においては、分野が異なる、また県外の他大学の学生さんとの交流やそれぞれの発表から、大きな刺激を受けているようでした。また、プロジェクト後の友達との交流も楽しんでいるようでした。コロナ禍でもあり、サークル活動がない状況下、仲間と集まること自体も楽しかったようです。(八代先生)
- 回を追うごとに各校の地域性や学科特性がみられ、毎日が楽しみでした。また、学生さんが各校の事前説明動画や当日のディスカッションで刺激され、新たな価値を発見しつつ、発表会に向けて思考がブラッシュアップされていく様は、成長のドキュメンタリーの様で感動を覚えました。(治京)
- 地域産品である「真珠」の新たな価値を見出そうと、参加短期大学が意見や資料を交換しながら、場を共有できたことは、教育効果としても大きかったと思います。(大重先生)
- 一つの課題に対して、バックボーン的全く異なる学生同士がオンラインという場を通じて話し合い、意見を交換し、新しい発見を繰り返しながら解決案を考えだしていった本プロジェクトは、本当に興味深く貴重な経験となりました。これからの時代に沿った「学びの共有」であり、学生達にとっても、多くの新しい知識を得ることのできるプロジェクトであったと思います。(衛藤先生)
- 広範囲の地域での連携は初めてのことであったので、学生にとっても、教職員にとってもよい経験となりました。また、学生がコロナ禍で、学内活動も制限された環境が続いていたため、他

大学の学生と交流できたことは、とてもよい経験になり、自分たちと異なる学びをしている学生に触れることにより、刺激を受けるだけでなく、自分たちの本分や長所も自覚できたようです。
(深町先生)

【大阪夕陽丘学園短期大学の取り組みや発表等について】

- ▶ 大阪夕陽丘学園短期大学の学生さんからは、多くの発言をいただき、いつも新たな視点をいただいていたように思います。本日の発表では「健康」「カルシウム」「栄養たっぷり」のキーワードがとても興味深かったです。育ち盛りの乳幼児にとっては、乳アレルギーによるカルシウム不足が危惧されています。そのため、今回の成果が牛乳の代替食の開発にもつなげていければと大変興味深く感じています。専門分野ではないので、的外れでしたら申し訳ありませんが、、、非アレルギー対応食の献立のカルシウム含有量と、代替食献立のカルシウムの含有量を比較することで何かの検証につながることはできないのかな？と感じました。(八代先生)
- ▶ 自校ですが、事前説明動画の作成や他学科である製菓クリエイトコースの先生と共同して作品を作る等、積極的に参加して頂き、良く頑張ってくれました。(治京)
- ▶ 「真珠を食べる」という、これまでの常識を覆す新たな商品価値への挑戦がすばらしい。
(大重先生)
- ▶ 毎回とてもしっかりとテーマについて調べ、それをわかりやすくまとめた動画だと感じていました。最後の発表(パート・ド・フリュイ)も、とても興味深く感じました。(衛藤先生)
- ▶ 取組の積み重ねの上に、着実に歩みを進めているなという印象があります。発表もマーケティング的なことまで考えていてレベルが高いと思いました。和泉短大の学生にとっては、栄養の成分の話がレベルが高いと感じられたようで、同じ土俵では追いつきようがないと学生たちは感じたとようです。逆に、自分達の強みは何なのかを自覚するよい機会となりました。(深町先生)

【和泉短期大学の取り組みや発表等について】

- ▶ 本学(和泉短期大学)の学生においては、忙しい合間を縫いながら主体的に取り組んでいたと思います。本学(和泉短期大学)の1年生は全員保育所・施設実習中であり、1・2月の期間は2年生のみで準備をしました。2年生自身も、連日の研修(就職先)中にて、大変そうでしたがよく頑張ったと思います。期間的にもコロナ感染症の状況的にも、試作品の実践までは難しかったのが残念です。是非とも今後につなげていければと思います。(八代先生)
- ▶ 保育の目線でのプレゼンテーションは、毎回、新鮮で新たな価値発見につながりました。発表会では、貝殻をどのように利用するのかと思っていましたら、マラカスや紙粘土ボトルと意表を突く作品は素晴らしかったです。他校さんとの繋がりとして、紙粘土ボトルに別府大学短期大学部さんの温泉の素を入れて販売すると面白いのかもしれないですね。(治京)
- ▶ 幼児教育の現場から「真珠」に対するアプローチを「マラカス」など具体的な制作提案に結び付けたところがすばらしい。
(大重先生)
- ▶ 学生さんたちの発表や司会などがとにかく上手だった印象です。「何かを発表する」「自分を表現する」ということを、とても高いレベルで行っていると、毎回感心していました。(衛藤先生)
- ▶ 1,2月は、保育実習、教育実習、試験をこなす期間の中で、空き時間を見つけて頑張ってくれました。ちなみに、貝殻の加工は、ニップを使って、切るのがやりやすいようです。割ったり、削ったり、きれいに加工するのは、それなりにノウハウが必要そうです。(深町先生)

【別府大学短期大学部の取り組みや発表等について】

- ▶ 入浴剤や、真珠パウダーのスイーツなど、とても興味深かったです。入浴剤の効果に関しては、人数を増やしての質問紙調査を実施してみると、裏付けができて面白そうだなと思いました。個人的には温泉特有の硫黄の匂いは嫌いではないですが、お肌すべすべの効果があることはとても良いなと個人的に思います。(八代先生)
- ▶ 同じ栄養士養成校ですが、毎回の地域特性を生かしたプレゼンテーションは、まさしく地域価値発見の源であると感じました。発表会では、温泉の素やチキン南蛮など地域に根差した作品の提示は非常に興味深く今後の参考になりました。また、和泉短期大学さんでも書きましたが、温泉の素と紙粘土ボトルとコラボすると面白そうですね。(治京)
- ▶ ご当地、別府は正に日本一の「温泉地域」です。その温泉にあらたに「真珠」の効用を添加しようとする試みがすばらしい。地域ならではの発想です。(大重先生)
- ▶ 学生たちがとても頑張ってくれました。良い発表ができたのではないかと感じています。
(衛藤先生)
- ▶ どの学生も、温泉・入浴剤に対する食いつきがよかったです。発表のプレゼンテーションそのものに加えて、そうした環境にいる学生と会話ができたことを喜んでいてる学生が何人もいまし

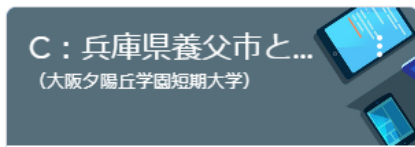
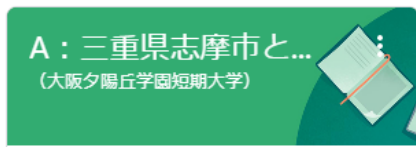
た。入浴剤の開発を実際にやって検証みたところは、素晴らしいかったです。大阪夕陽丘学園さんの発表もそうですが、検証をしてみるという視点自体が、和泉短大の学生にとっては発見があったと思います。(深町先生)

【真珠価値探求プロジェクトの運営について、問題点や改善点等について】

- 試作商品の出店、イベントの実施等までつなげることができると、さらなる学生自身のモチベーションの向上につながるように感じました。プロジェクトの期間を1年間等、もう少し長期にすることにより実現が可能になるかもしれないと感じました。(八代先生)
- Google Classroom の利用が無ければ、運用は難しかったと感じています。開催回数や開催時期や開催間隔の見直しは、必要かなと思います。通年を通して、余裕を持たした方が良いのかもしれませんが。見逃しオンデマンド配信は、余り見て貰えていない感じでした。また、アンケートは、毎回の時間内に提出して頂いた方が良いのかなと考えます。今後は、これら点を改善した運営の提示が出来たらと思います。(治京)
- 科学的なデータに基づく、効能や食品安全性などリスク検証が今後追加的に必要かと思えます。また、これら試みを広く全国の短期大学に公開するためのプラットフォーム(google classroom)についてその構成やデザインを改めて検討する必要があります。(大重先生)
- 問題点などは感じませんでした。改善点は、あえてあげるとすると、それぞれの大学さんの授業などの縛りもありますが、時間がもう少し参加しやすい時間だとより多くの学生が参加できるかなと感じました。(衛藤先生)
- 本学は実習等でスケジュールがかなり特殊かつ過密で、特に年始は、1, 2年生の協力もスケジュールを合わせたりするのが難しかったりで、もう少し時間的な余裕があればと感じました(本学マターの問題なのですが)。手探りで状況でしたので、最後までたどり着けただけでも、よい成果だと思います。治京先生がコアになって進めてくださったからだと思います。(深町先生)

【その他、ご質問・ご要望等について】

- 治京先生、毎回のアンケートの準備ありがとうございました。大重先生、司会進行をありがとうございました。提案して下さった、他大学とのコラボレーション企画はとても面白そうだなと感じています。他大学の皆様から、アイデアなどいただきました。ストーリー性、ボタン、スノードーム、レジンで固めるなど、とても参考になりました。心より感謝申し上げます。(八代先生)
- 学生さん、先生方のおかげで、無事、真珠価値探求プロジェクトを終えることができました。心よりお礼申し上げます。(治京)
- ZOOMを使っても、かなり深い連携ができたように思います。今後ともこの体験を活かしていければと思います。(大重先生)
- このプロジェクトに参加させていただき、本当に感謝申し上げます。学生にとっても、また自分にとっても、とても貴重な経験となりました。また治京先生には、お忙しい中、毎回の準備などを行っていただき、心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。(衛藤先生)
- 学生とともに良い経験ができました。地域連携をするときの参考になることも多々ありました。なお、今回参加できなかった教員が、この企画に刺激を受けて、<https://www.izumi-c.ac.jp/news/2023/02/13/16545/> のようなことをおこないました。(深町先生)



2022年度の活動報告

A: 三重県志摩市との地域価値発見支援事業

【経緯】

2019年に三重県志摩市の竹内千尋市長(当時)より、地域活性化推進事業としてパールズコレクションの共催が提案され、翌年、包括的連携協定が締結されました。その後、パールズコレクション、三重県志摩市立図書館リニューアルオープン、市民講座、遠隔調理実習と地域文化の振興並びに地域活性化のための連携・協力を行っています。

【概要】

本学と志摩市との相互の連携を強化し、文化・教育・学術・まちづくり等の分野で機能向上を図り、本学と志摩市を中心とした地方創生を推進して、地域の発展及び活性化を図るとともに、高校生、短期大学生及び高校短期大学教職員の教育・研究に資することを目的としています。

【ノウハウ】

まず、本学 ICT 教育推進委員会の協力により、ICT を活用したダイレクト遠隔システムを確立することで、本学(大阪市)と志摩市とのオンラインミーティングを簡便にかつ円滑に行っています。また、オンラインミーティングに必要な PC 関連のガジェット等の必要機材が常時貸出可能な状態にあります。

次に、本学リエゾンオフィスでは、次のポイントに力を入れて信頼関係の構築と運用に努めています。

- ・コミュニケーション力(こまめな対応、相手の懐に入る)
- ・交渉力、プレゼン力
- ・win-win の意識
- ・目的及び使命の明確化(真珠、農業、ICT、地方創生など)
- ・軽いフットワーク
- ・業務外での付き合い(連携事業以外の課題解決)
- ・地域、社会貢献の意識
- ・教育効果の最大化(学生のため)
- ・ブランド意識(自大学のため)
- ・学内での調整力

【展望】

パールズコレクション、市民講座等の活動を通して、地域文化の振興並びに地域活性化、教育プログラムの開発及び教育の充実、産学共創・産業振興・企業振興へと展開することを目指しています。

B: 大阪市天王寺区との食育活動支援事業

【経緯】

2018年に天王寺区内に立地するさまざまな団体や企業、事務所等の協力を得て、地域課題の解決や公共の福祉の増進を図っていく天王寺区の新たな取組みの天王寺区サポーター「テンサポ」に認定されました。

【概要】

本学は「子育て支援や未来人材の育成と福祉や健康に関する取組」の分野での協力支援体制を整え、地域に根ざし、天王寺区をよりよいまちに育てていくサポーターとして貢献することを目的としています。

【ノウハウ】

本学、食物栄養学科の特別研究授業の一環として取り組む事で、継続した地域貢献活動を行う事ができています。

【展望】

天王寺区をよりよいまちに育てていくサポーターとして、地域の発展及び活性化を図るとともに、学生及び教職員の教育・研究へと展開することを目指しています。

C:兵庫県養父市との文化施設運営支援事業

【経緯】

2019年に兵庫県養父市より、養父市文化会館の新設オープニングイベントで結婚式のプロデュース依頼があり、翌年、包括的連携協定が締結されました。その後、関西大学環境都市工学部と連携・協力しブライダルイベントを行いました。

【概要】

本学と養父市との相互の連携を強化し、文化・教育・学術・まちづくり等の分野で機能向上を図り、本学と養父市を中心とした地方創生を推進して、地域の発展及び活性化を図るとともに、短期大学生及び教職員の教育・研究に資することを目的としています。

【ノウハウ】

「A:三重県志摩市との地域価値発見支援事業」のノウハウを基盤として、事業を推進しています。

【展望】

ブライダルイベントの活動を通して、地域文化の振興並びに地域活性化、教育プログラムの開発及び教育の充実、産学共創・産業振興・企業振興へと展開することを目指しています。